

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 44 号

エイズ治療拠点病院における HIV と共に生きる人々のライフコースに対応した外来看護支援のための教育プログラムの開発

(Development of an educational program for nurse support at outpatient clinic for People Living with HIV depending their life course in AIDS Treatment Base Hospitals)

久保田 早苗 (くぼた さなえ)

博士 (看護学)

### 論文内容の要旨

【目的】長期療養が可能となった HIV と共に生きる人々 (PLWH) のライフコースで遭遇する複雑な医学的・心理社会的問題に対応するための外来看護支援教育プログラムを開発し、その有効性を評価することを目的とした。

【方法】本研究はインストラクショナルデザインの ADDIE モデルを用いて、教育プログラムの開発および、その有効性を評価した。まず、国外で有効とされるピアサポーターによる PLWH の心理社会的転帰の改善につながる支援に関する文献検討を行った(研究 1)。次に、エイズ治療拠点病院の PLWH 外来看護支援の現状と課題を明らかにするため質問紙調査を行った (研究 2)。そして、これらの結果と英国 HIV 協会作成の教育ガイドラインを基盤とし、PLWH 外来看護支援教育プログラムを作成し、PLWH 支援に携わる看護師を対象にプログラム受講前後および、PLWH 支援後の 3 時点で質問紙調査を行い、プログラムの有用性を検討した (研究 3)。

#### 【結果・考察】

PLWH の心理社会的転帰の改善につながる有効な支援は、HIV に関する様々な知識、アドヒアランスの障壁の克服等に関する議論や個別介入であった。これらは、社会交流の増加と、気分障害によるスティグマの軽減をもたらし、PLWH の QOL 向上に寄与することが示された。質問紙調査では、64 施設 113 名より回答が得られ(回収率 33.3%)、PLWH 外来看護支援の現状と課題として、「スティグマの概念に関する理解」「自己効力感を高める支援」「セクシュアリティに関するコミュニケーション」スキルの習得が必要であることが明らかとなった。教育プログラムは、1 項目 10 分程度で構成された 8 項目のプログラムと、HIV 診断直後の場面を想定した 2 動画から構成される Web 教材を開発し、プログラムを受講した PLWH 支援に携わる看護師 4 名を対象に検討した結果、コミュニケーション、知識、実践得点はプログラム受講後に有意に上昇し、PLWH 支援後まで得点上昇し ( $p < .01$ )、維持されていた。一方、態度は有意な差は認められなかったが、時間の経過とともに得点上昇を認めた。特に、HIV 診断後に PLWH が抱く負の感情 (死や絶望) に対する困難さの得点は減少しており、PLWH に対する肯定的な理解を深められたのではないかと推察される。PLWH が長期療養の中で困難さや悩みが生じやすい段階を理解し、その困難や悩みへの対処方法を習得することが実践能力の向上につながることを示唆された。

#### 【結論】

作成した PLWH 外来看護支援教育プログラムは、PLWH 支援のコミュニケーション、知識、実践力を向上し、PLWH 支援直後まで維持しており、有用であった。